

- 生徒の主体性を育てたい!
- 集団づくりがうまくなりたい!
- 特別活動の授業のアイデアを広げたい!

そんな先生方に、秀学社の特別活動通信シリーズをお届けします。



東村山市立東村山第五中学校

吉川 滋之

生徒一人一人が、「人と関わり合うことが楽しい」と思える
学級活動を目指して

～中学校での学級会の実践を広げ、深めていきましょう～

【前編】「事前準備を生徒と共に楽しむことが大切」

1

特別活動の果たす役割

令和の日本型教育では、急激に変化する時代の中で、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められており、特別活動の果たす役割はとても大きなものです。

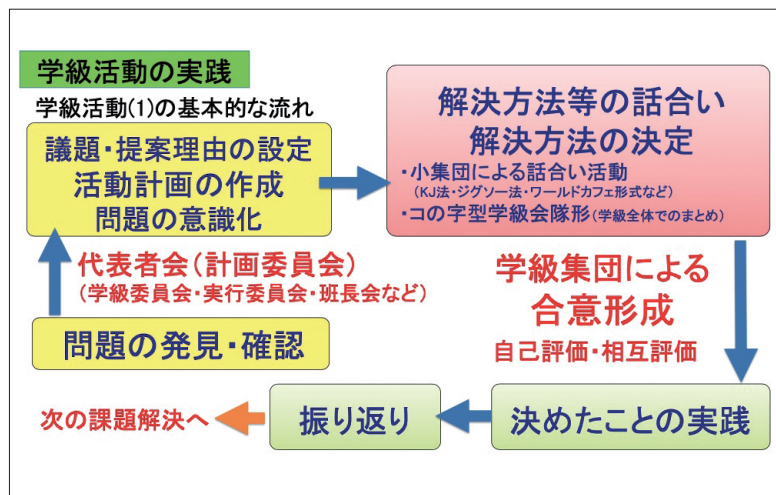
特に、毎日の学級活動を通して、生徒同士が「自分たちで話し合い、決めて、実践する」経験を積み重ねることで、よりよい集団生活や人間関係を築いていく力が大きく期待されています。

小学校からの土台をもとに、中学校でも継続した実践を積み重ねていくことで、よりよい人間関係を形成し、学級集団の力を伸ばし、連帯感や達成感、自己有用感、自己肯定感を育ませることのできる大きな機会となります。今回は、中学校における学級会の学習過程について2回に分けて紹介したいと思います。

2

一連の学習過程が大切になる

学級活動の実践には、一連の流れがあります。問題の発見・確認から議題や提案理由の設定、代表者会でのリーダーへの事前の指導、そして学級会本番での解決方法等の話し合い活動における集団での合意形成、その後の決めたことの実践・振り返りと、PDCAサイクルを繰り返しながら学級集団の成長を図っていきます。



3

事前準備を共に楽しみながらひと工夫を

学級会の運営には、事前の準備や指導が欠かせません。共同の問題を選定するために、事前アンケートを取り、代表者会議で集約を行い、学級目標の実現度、学級の高さや課題等を分析し、問題の発見を行います。また、議題箱を通して個人の意見を集め、生活上の課題を把握します。

学級の全員で話し合うべき問題かどうかを考え、議題を選定します。学級生活がもっとよくなること、学級集団で行いたいこと、創意工夫してつくりたいものなど、生活の中から、自分たちで解決できる問題を見つけます。

司会グループをはじめとする代表生徒への主な準備指導としては、議題や提案理由を具体的な内容にする、話し合い活動の内容や進行の役割分担、合意形成のための段取りの確認などを行い、生徒の活動を支援します。

教師も生徒も多忙な中、事前準備の時間確保が悩みの種だと思っています。一人一台の学習者用端末を活用し、「オンラインで共同編集」を行ったり、昼休み時間等に教室で「開かれた代表者会」を行い、周りの生徒たちにも興味・関心をもってもらう等の指導の工夫も行っています。

また、決定した議題や提案理由については、事前に伝えたり、学級活動コーナーに掲示する等、議題に対する意識を高めさせる工夫を行います。

リーダーの生徒たちが自分たちの言葉や力で学級活動を進めていけるように指導することで、学級集団の力が高まり、生徒同士の人間関係形成能力や自治的能力を高めるための大きなチャンスになります。

議題の選定とともに、提案理由が大きな意味をもってきます。何のためにこの学級会を行いたいのかという思いが、提案者、学級委員や実行委員、班長などのリーダー生徒だけでなく、学級集団全体での共通理解や、ねらいの具体化、話し合いの焦点化につながります。

[illegible]

最後に 限られた時間の中での事前指導。生徒と教師で楽しみながら取り組んでいけることが大切です。「なすことによって学ぶ」という特別活動の方法原理に基づき、適切な指導の下、生徒同士による活動を信じ、任せてみてください。学級会を積み重ねるごとに、生徒たちが着実に成長していく姿を実感できると思います。生徒の新たな一面や光る姿を教師自身も発見でき、感動できる瞬間を共有することができます。特別活動の面白さをぜひ味わっていきましょう。本紙を通して、特別活動の魅力を少しでもお伝えできれば幸いです。

■秀学社は中学校の特活教材を発行しております。本紙や教材についてご質問、ご要望がございましたら、弊社webページ「お問い合わせフォーム」までお知らせください。

秀学社HP

<https://www.shugakusha.co.jp/>

